

平成18年度 終了評価書

研究機関 : 三菱電機(株)、(株)NTTドコモ、(株)パスコ
研究開発課題 : 次世代GISの実用化に向けた情報通信技術の研究開発
研究開発期間 : 平成15～17年度
代表研究責任者 : 田中 聡

■ 総合評価(SABCDの5段階評価) : 評価A

全体として優れた研究成果が得られており、今後の事業化・普及が期待できる。

(コメント)

- 研究開発項目、並びにその社会的意義の重要性は高く、今後の普及が期待される。
- 継続評価の評価結果等も反映されており、全体として優れた成果を上げ、また今後の事業化も期待できる。
- 研究項目の評価に若干不十分さが見られる。

(1) 事業の目的および政策的な位置付け : 評価A

技術開発項目、社会的ニーズともに、重要性が高く、防災面への活用など事業目的は現時点でも妥当性があり、政策的な位置づけも明瞭であり、国が推進すべき重要な事業であると認められる。

(コメント)

- 3次元GISの固定端末利用の研究開発成果を踏まえ、携帯電話やPDA等のモバイル端末でも3次元GIS利用を可能とする研究開発であり、「GISアクションプログラム」や「e-Japan 重点計画」に沿うものとして意義が大きい。
- 技術開発項目、社会的ニーズともに、重要性の高い事業と考えられる。一方で、検討の不十分な項目も見受けられる。
- 防災面は国家関与が必要である。

(2) 研究開発目標 : 評価A

設定目標は現時点でも妥当性があり、かつ具体的なものである。

(コメント)

- 各社が得意とする技術をコアとして共同研究を行えたことの意義は大きい。
- 開発目標は具体的である。一方で、評価はより詳細に行うことも可能と思われる。

(3) 研究開発マネジメント(費用対効果分析を含む) : 評価A

適切かつ効率的な研究開発マネジメントが行われたと認められる。

(コメント)

- 3企業の役割分担は、明確で適切と思われる。

(4) 研究成果の達成状況 : 評価A

計画どおりの成果が得られている。

(コメント)

- 当初の成果を上げていると思われる。
- 全体として当初の目標値を達成している。ただし、説得力の弱い目標値もある。

(5) 研究開発成果の展開および波及効果 : 評価A

特許等もよく取得しており、実用化・事業化の可能性が認められる。

(コメント)

- 特許等もよく取得していると思う。実用化・事業化に発展することを期待したい。
- 今後の研究開発項目の進展も期待される。

(6) その他(広報活動 等) : 評価A

優れている。

(コメント)

- 「GISセミナー」、「GISフォーラム」を通じて、研究開発成果の普及促進に寄与した。
- 他省庁との連携もよく行ったといえる。